

リスクマップの公表と今後の予定

令和3年5月26日
徳島河川国道事務所

1. 流域治水推進のための水災害リスク情報の充実について

- 水災害リスク情報は、住民の避難に加えて、まちづくりや施設等の浸水対策を講じるにあたって有用である。
- このため、想定最大規模降雨や治水計画等の目標とする規模の降雨のみならず、中高頻度の規模の降雨（例えば、1/10、1/30）が、河川整備が進んだ場合、どのような浸水ハザードをもたらすかを示す多段的な水災害リスク情報の作成・周知が必要。

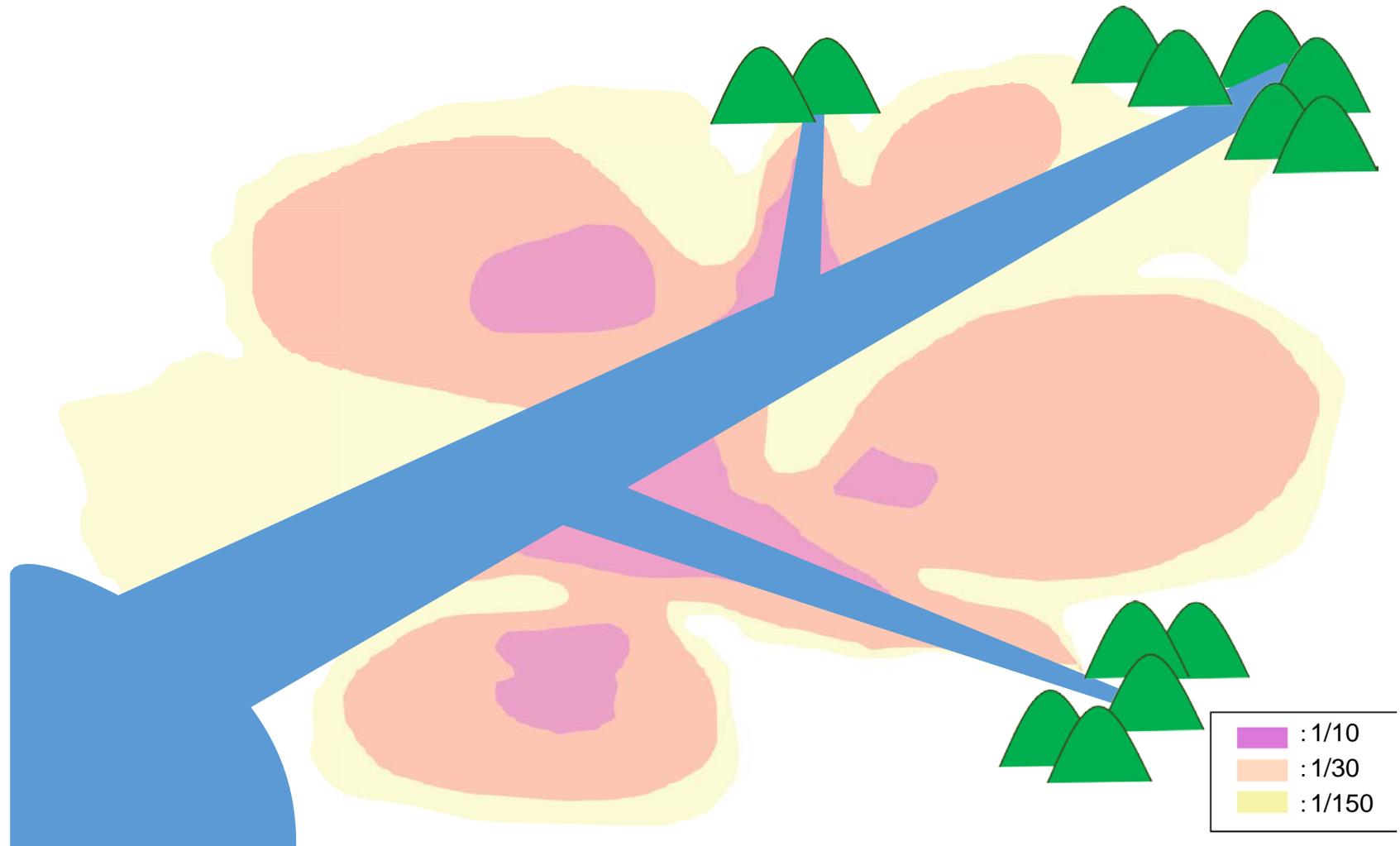


降雨規模 時間軸	1/10程度 高頻度	1/30程度 河川整備計画の 目標規模	1/150(L1) 河川整備方針の 目標規模	想定最大 規模(L2)
現時点	○ R3年度内目途	○ R3年度内目途	公表済 H28.6	公表済 H28.6
短期	○ R3年度内目途	○ R3年度内目途	必要に応じて 検討	—
整備計画 完了時点	○ R3年度内目途	○ R3年度内目途	○ R3年度内目途	—

2. 多段的な外力規模によるリスクマップのイメージ

○これまで水防法に基づき公表してきた想定最大規模の降雨によってもたらされる浸水ハザード情報に、中高頻度の外力規模による浸水想定範囲を重ね合わせたリスクマップを作成中。

○現状のリスクを把握し、各種対策を検討する上での基礎資料とする。



3. リスクマップ作成に係る今後の予定

リスクマップ【現時点】の作成

従来の浸水想定区域図に、1/10規模、整備計画規模と
いった、頻度の高い洪水による浸水想定範囲を重ね合わせ。

リスクマップの作成状況の共有

現状のリスクを把握し、各種対策を検討する上での基
礎資料とする。

第4回 吉野川流域治水協議会

5月
26日

リスクマップ【現時点】の精査 リスクマップ【整備段階毎】の作成

整備状況を反映したリスクマップを作成。

リスクマップの公表

整備段階に応じたリスクの変化を確認。時間軸を踏まえ
た対策を検討する上での基礎資料とする。

第5回 吉野川流域治水協議会

10月
以降

リスクマップ【支川考慮】の作成

流域全体の支川の氾濫等も考慮したリスクマップの作成。
内水被害が顕著な一部流域において、支川内水等に関するリスクを重ね合わせ。